

# 新・上越のみどころ

特定非営利活動法人 理事長  
女性みらい上越

野本 幸（上越市在住）

十四市町村の合併でできた新生上越市は、多くの日本の原風景が加わり、よりいっそう魅力がアップしました。全国有数の農業都市・上越をたずねてみましょう。

昔、ぬか釜で炊いたご飯が、一番おいしかったという話をよく聞きます。ぬか釜って何？ 米ぬかでご飯？ と安塚を訪れると、もみがらを燃やして炊く昔ながらの全



自動炊飯器具を発売。「小さな空」といって雪むろそば家では「ぬか釜おにぎり」を百円で

食べることが出来ます。毎日おいしいご飯を食べている私でさえ、棚田とブナ林を見ながらゆっくり食べるふつくらとおいしいごはんには感動です。



郷土料理を食べながら雪見酒を飲むなら、どぶろく特区第一号の牧へ。かやぶき屋根の「ふるさとの家」で飲む酒は格別です。吉川や三和など、上越は米どころ酒どころ。蔵元は十六になりました。蒲川原のコシヒカリアイスはぜひ一度ご賞味ください。



地場産の食材、名物料理に代表されるスローフードは、体験と一緒にすることでいっそう感動を生みます。新上越市は、田舎体験の先進地。大島など中山間地では、ホタル鑑賞、棚田での田植え、稲刈りやはさがけ、アケビつる細工、そばうち、笹団子づくりと、農林業体験、伝統

工芸、味覚体験、雪国体験と豊富なメニューがお出迎え。民宿に泊まって翌日は田舎体験というコースもおすすめです。海が好きな方には、これからの季節は、四十一キロに及ぶ海岸線をドライブしてはいかがでしょう。大潟や柿崎では地引網ができ、浜で魚介類たっぷりの海賊汁を食べることができます。谷浜、直江津、鶴の浜、柿崎川西、柿崎中央の五つの海水浴場で見ると夕日は格別です。その後は、市内三十六箇所もある温泉へ。どこを選ぶほうが迷ってしまいますね。

歴史を訪ねるなら、親鸞聖人ゆかりの旅。上陸の地から居多神社、五智国分寺、浄興寺から、板倉にある親鸞聖人の妻・恵信尼公廟所もぜひ足をお運びください。

新しい魅力が加わった上越では、市民の人なつこい笑顔と方言、そして元気が加わり、上越を離れて暮らす皆さまの心をきつと癒してくれることでしょう。

